

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. A-46

<b>部門名:</b> カリキュラムマネジメント実践部門	<b>エントリー名:</b> 長崎県松浦市立鷹島小学校 長谷川「智一」 平成 30 年度 第 4 回中堅教員研修
<b>活動名:</b> 教師が変わる学校が変わる 強みを突破口とした教育活動の創造	
<b>解決すべき課題:</b> 総合的な学習のカリキュラムの内容が学校の実態や時代に合っていない、あるいは学年ごとのつながりが効果的でない。教育活動が効果的に機能し、教師がその教育活動に意義を感じながら指導に当たれるようにする。	
<b>目標・方針:</b> <b>&lt;目標&gt;</b> 1 教師一人一人がカリキュラムマネジメント力を高め、教育活動を直線的でなく、平面的立体的につなげて考える力を高める。 2 総合的な学習を中心としたカリキュラム作りに全職員が参画し、教師が夢を持ち、教育活動全体を創造する喜びを味わう <b>&lt;方針&gt;</b> 1 教師が目的意識を持って、何のためにその教育活動があるのか、どんな力を児童に身につけさせたいのか、目的を全職員が共有しながら教育活動を見直す。 2 ポジティブに教育活動をとらえ、自校の児童や地域教材の強みを最大限に活用した教育活動を創造する。また、それを軸とする教育活動のつながりを工夫することで効率的に機能する教育活動の仕組みを作る。	
<b>活動内容:</b> 研修 1 自校や地域の強みをワークショップ形式で出し合い、カリキュラムに生かせそうな教材や教育活動の可能性を探る。 研修 2 自校の児童に身につけさせたい資質や能力を明確にし、それに向けた教育活動の可能性を探る。 研修 3 新しく提案された教育活動を実際のカリキュラムに盛り込み、指導計画を修正する(総合的な学習のカリキュラムの抜本的見直し)。 研修 4 「総合的な学習の授業づくり」の講座を全職員で受講し、見直しの視点に沿ってより効果的なカリキュラムに修正する。	
<b>活動の成果:</b> 1 「強みが突破口である」という発想を基盤として、新しい教育の形をチームで創造することを通して、教師一人一人が夢を語り、それを具現化していくことができるという自信を持つことができた。 2 何のためにその教育活動が存在するのか、教師一人一人が目的を意識するようになり、必要なことを取り入れ、不必要なことは削除しながら、新たな教育活動を組み立てる力が体験的に高まってきた。 3 協働的に取り組むことにより、教職員のチーム意識や職場内での自己有用感が高まりつつある。 4 特に、総合的な学習に関しては、「社会に貢献する人材を育成する教育活動になっているか」という視点で教師がみるようになってきた。	

以下、参加職員の感想の抜粋である。

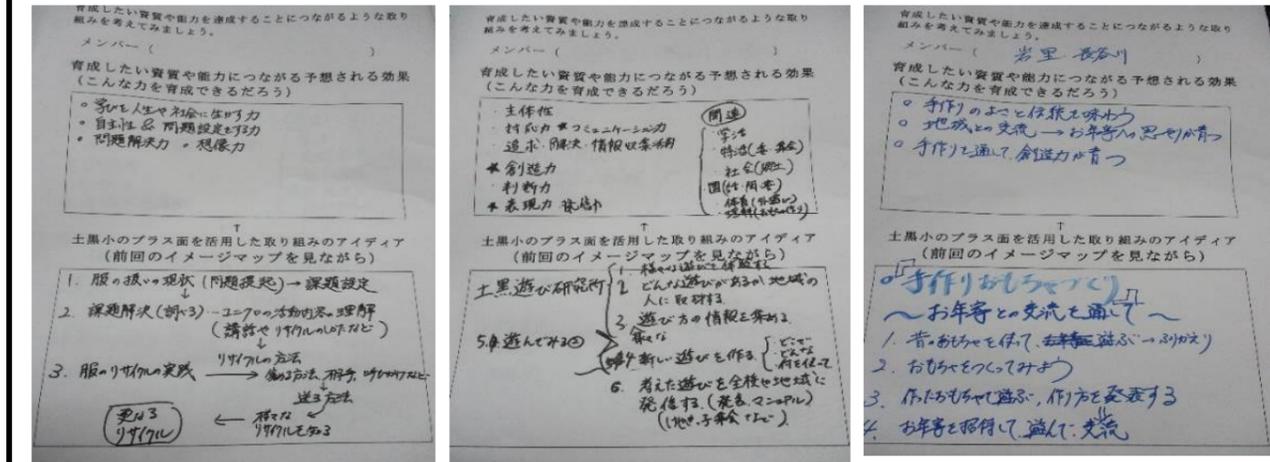
- 教諭 K 「土黒小の強み」について多くのアイデアが出され、総合的な学習に生かせる多くの教材が眠っていることがわかった。教師の知恵はすごいと実感した。  
 教諭 H チーム内でアイデアを出しながら、学びの系統性を形にすることができつつある。自分たちで企画した教育活動にどのような効果があるか実践の成果が楽しみになってきた。  
 教諭 I 土黒の強みを生かすという発想で職員が知恵を出し合えば、自分一人では気付かない、効果的で効率的な教育活動を創造できることを実感した。  
 教諭 K 新しい時代の学力に対応するためには、本当に教育活動をマネジメントしていかなければならないことを実感した。  
 教諭 H 「一点突破」の考え方で教育活動を仕組み、その活動を通して育んだ自信が他の分野にも波及していくことが今後期待できるのではないかと。更に、「社会とのつながり」の視点を取り入れ、実生活に生かしていくという取り組みも増やしていきたい。

【実際の研修の様子】

<研修 1> 土黒の強みを出し合い、教育活動の可能性を探る。



<研修 2> 身につけさせたい資質や能力を明確にし、それに向けた教育活動のプランを企画する



アピールポイント (アイデアや工夫) :

- 1 自校の児童のよさや地域教材の強みをポジティブにとらえ、それを生かそうとする教師の発想が高まる。
- 2 教師一人一人が、学校の教育活動全体を俯瞰的にとらえ、マネジメントしていく力が育つ。
- 3 教師一人一人の教育活動への意識が高まり、「ここに向かっていくんだ。」という、チーム学校の目標が確実になり、職員全員で共有しやすい。
- 4 実際に出したアイデアを教育活動に反映させていくことで、新たな取組を積極的に取り入れていこうとする教師集団の変革意識が高まる。